添付＿「尼﨑教授講演の教え」

旧柏倉九左衛門家、惣右衛門家住宅の庭園文化の魅力に着目した尼﨑教授の講演会を聴講し、私達は改めて多くの事を学ぶことができた。以下にその要旨を述べる。

【「尼﨑教授講演の教え」のまとめ】

ア）国指定の建造物となった旧柏倉九左衛門家住宅と町指定の惣右衛門家住宅には多彩な庭園の文化があり、そこに注視して頂きたい。

➢本家と分家の庭から見えた共通性

➢紅花の舟運がもたらした青森津軽地方、鹿児島の庭園文化の広がり

➢石工の情念とも感じられる巧みな技

イ）紅花の舟運はこの地に色々な文化をもたらした。柏倉家の当主は煎茶文化を建築や庭園に取りれた。庭園は建物と共に周辺の景観と一体となって大きな空間を形成しているが、歴代の当主は庭園の手入れを怠らず、その価値や良さを残してくれた。江戸から明治期にかけて、庭と建物に取り入れた当主の喫茶文化を感じとって頂きたい。

ウ）国指定重要文化財旧柏倉家住宅とその文化を今後どの様に後世に引き継ついでいくべきか。**この地域の人々の肩にかかっている**。ボランティアや柏倉家に思いを寄せる人等、多くの人々に支えて頂くことが重要である。そして、文化財を適切に保護しながら利活用して、文化財の新しい価値を生み出すと共に、**感動を共感できる新しい文化を創造していくこと**が最重要課題である。国指定の重要文化財「旧柏倉家住宅」がその様になることを心から期待している。

【項目別要旨】

①柏倉家が守ってきた文化

主屋の正面は東向きで建物全体が裏山（西山丘陵）を借景としており、自然と一体化した構えとなっている。更に東方向の眼下には紅花畑の景観が展開する。紅花は舟運により、上方の文化をこの地にもたらした。柏倉家の庭園や煎茶の文化からこのことを窺い知ることができる。

②西山からの水は治水と利水を考慮

旧柏倉家住宅が立地する中山町西部の岡地区はその昔水資源には恵まれなかったため、同家が使用する水を裏手の西山丘陵の地下水に求めた。建物の西側に土手を築いて水を受け止め（治水）溜池を造り、この貴重な用水を庭園の池や、主屋軒内に導き水景とし、洗い場に水路で効率的に引き込んでいる（利水）。

③主屋上座敷から眺める池山水

柏倉家の当主は煎茶の文化を建築や庭園に取り入れた。上座敷の造りは中国的デザインで唐木等も使用。上座敷から眺める「池山水」、この開放的な空間は茶人の心を惹きつける。

添付＿「尼﨑教授講演の教え」

④接客空間と生活空間を分けた主屋前庭のアプローチ

長屋門から主屋の北側へと続くアプローチは、住人や使用人の生活空間へと誘い、南側へ続くアプローチは、接客空間へと誘う。生活空間の庭には二方向から降りられる洗い場があり、接客空間の庭には赤松や大型の「雪見灯篭」が存在感を醸しだしている。

⑤前蔵から北側に展開する庭の様式と水盤の謎

沓脱石(くつぬぎいし)から二方向へ続く飛び石。
左方向は蹲(つくばい)／手水鉢(ちょうずばち)に向かい、右方向は礼拝石(らいはいいし)に向かう。
奥に層塔型の石灯籠が聳え立つ。この石灯籠は出雲地方名産の来待(きまち)石で日本各地に見られる。この庭園の様式は、青森の津軽地方に見られる「大石武学流」(おおいしぶがくりゅう)の特色に共通する。他に、一つの石をわざわざ割って、それを繋ぎ合わせた「合わせ石」を用いているが、これは鹿児島の「知覧武家屋敷群」に見られる。庭の手入れを継続してきたことから、この「合わせ石」の存在が明らかになった。
又、庭の東方向へ続く飛び石の先に船型の水盤が見られるが、この水盤は何を意味しているのか、今後の調査を待たねばならない。紅花がこの地にもたらした舟運の面影か。
主屋正面に広がる庭の様式は、分家惣右衛門家の庭にも同様に見受けられる。

⑥仏蔵の南側の庭

「枯山水」のこの庭には、出雲地方の来待石の「濡鷺(ぬれさぎ)型石灯篭」と太古の昔に樹木が石化した「硅化木」が用いられ、当主の趣味を抱き、庭の広がりを演出している。

⑦石材加工に見る石工の存在と巧みな技

建屋を支える基礎石は、上層と下層になっているが、上層の延べ石を形状に合わせて加工する「光付け」が施され、石工の仕事に尊敬の念を抱くとともに、石工の情念すら感じとれる。
石材の丁寧な加工は、洗い場の中にも見受けられる。洗い場の水の溜まりやすい部分に、排水用の溝が掘られ、水洗い作業者に配慮した石工の精彩な技であろう。この地域で作庭に携わった石工とは如何なる者であったか。石工に伝わった技や文化を調査する必要があると思料する。

⑧分家惣右衛門家の庭と外壁

分家惣右衛門家は大正期の建物で、庭も本家九左衛門家と同じ様式で作庭されている。特に注目すべきは、主屋前庭の「車回り」を想起させるコンクリートと石を組み合わせた斬新なデザインの輪形の通路と主屋へのアプローチである。明治、大正期に石の代わりにコンクリートを使用出来たのは資産家でありステータスでもあった。本家と同様に建屋を囲む水路には、石を丁寧に加工して不断に使用している。
又、黒塀の石垣の一部にもコンクリートを使用して亀甲模様を映し出し、黒塀の景観を更に引き立てている。

以上